

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

高潮からいつ逃げる？ その時には？！

葛飾区で起きるであろう大きな災害には、どのようなものがあるでしょうか。地震でしょうか？ 洪水でしょうか？

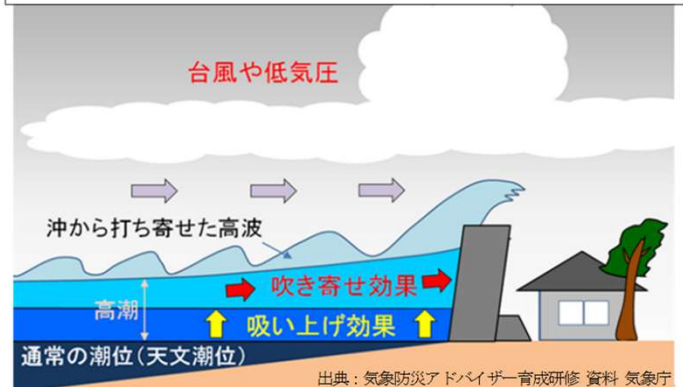
高潮についてはいかがでしょうか？ 葛飾区ハザードマップには、河川が氾濫したときの浸水想定区域図がありますが、高潮による氾濫についても同様に、浸水深と浸水継続時間が示されています。高潮による大きな被害は、強い台風の接近に伴って起きています。高潮が起きる仕組みや起きたときの気象状況などを知って、避難のタイミングや防災について一緒に考えていきたいと思えます。

台風が接近すると、気圧が低くなり、海面を押ししていた大気圧が減少して、潮位が上昇します。これを“吸い上げ効果”と呼び、その割合は気圧が1hPa下がるにつれ、潮位は約1cm上昇します。また風が強くなるにつれ、その風下に海水が吹き寄せられ、潮位が上昇します。この“吹き寄せ効果”による潮位の上昇は、風速の2乗に比例します。これら2つの効果を加えたものが高潮となりますが、満潮時にこれらが重なるとより一層の注意・警戒が必要となります。

強い台風が東京の西側近くを北上すると、東京湾では南寄りの暴風が吹くことになり、海水は東京湾の北に吹き寄せられ、潮位が上昇しますので葛飾区付近でも警戒が必要になります。この時、高潮が堤防を越えていなくても、高潮の上に乗った“高波”が堤防を越え、繰り返し襲って被害を発生させる心配もあります。

2018年9月、強い台風21号が大阪市付近を北上し、記録的な暴風や高潮の被害を引き起こしました。関西国際空港では高潮により滑走路が冠水、また暴風でタンカーが流され空港との連絡橋に衝突し、空港が閉鎖や孤立に追い込まれました。このニュースをご記憶の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

吸い上げ効果：気圧が1hPa下がると、潮位は約1センチメートル上昇
吹き寄せ効果：潮位の上昇は風速の2乗に比例



出典：気象防災アドバイザー育成研修 資料 気象庁



されていますので、これに伴うリスクについても留意していきたいと思えます。

万が一、これまでに経験したことのない930hPaを下回るような台風の直撃が想定される場合は、遅くとも24時間前の段階で広域避難を検討しましょう！

問い合わせ先 危機管理課災害対策係 電話 2274

令和6年4月5日
危機管理課発行